三愛学舎広報誌　第9号　（2025年１月発行）

〒028-5133
岩手県二戸郡一戸町中山字軽井沢 49-33
電話:0195-35-2231　　FAX:0195-35-2781　〈三愛学舎ホームページ http://www.sanaigakusha.net〉

# 新専攻科棟へつなぐ思い！

三愛学舎は、豊かな自然に囲まれています。

校歌に「ここみちのくの大いなる地　山なみあおぐ　みどりの丘　…」とあるように、奥中山のシンボルである「西岳」が、いわて銀河鉄道を挟んで西側に構えており、その左手遠望にふるさとの山「岩手山」、さらにその左手に「姫神山」を眺めることができます。

このたび、奥中山の小高い丘の上に、本科校舎と並んですてきな専攻科棟が建ちました。公益財団法人 JKA をはじめたくさんの方々のご支援、ご協力によるものです。心より感謝申し上げます。

来春から奥中山の風土に生かされながら、新しい専攻科の校舎で生徒も職員も共に学び合い、そして地域の方々も自由に出入りできるような学校になります。

教育の在り方は、その土地の環境や建物に大きく影響されます。そこで学ぶ人の気質や文化にも影響を与えるでしょう。

「何？」、「なぜ？」、「どうして？」と問いながら自分で学びたいものを見つけ、探していくには奥中山はとても良い土地柄です。

自分の「気付き」から学びを見つけ、自分の夢をもてるような環境が大事です。楽しく、充実感のある学校を生徒と教職員が力を合わせて創っていきます。

今日の学びが楽しければ、明日もまた、足を運びたくなります。

自分たちの居場所がある学校ならば、自分たちで校舎を大切にするでしょう。輝く学校では、学びも楽しくなります。

新しい専攻科の校舎は、“喜びをわかち合い、希望をもって生活する人”をめざす新しい教育の在り方へと舵を切る大きな力を与えてくれるでしょう。

（本科校舎）

（学校法人 理事長　校長　澤谷常清）

多くの方々にご支援いただき、2年前に待望の新校舎（本校舎）が完成しました。

2024年度は本科42名、専攻科24名、計66名の生徒達が学んでいますが、今年度本校では新たに専攻科棟の建築が進んでいます。1996年に専攻科が開設されてから28年、専攻科生の学びを支えてきた専攻科棟も老朽化が進み、生徒数の増加に伴う学習スペースの確保やより充実した教育活動に取り組むための施設設備の充実が課題となっていました。

三愛学舎広報誌 第９号となる今号は、これまでの専攻科の歩みに触れながら「新専攻科棟へつなぐ思い」をテーマにご紹介します。

# 「専攻科に込めた願い」

◆専攻科に込めた願い

“ゆたかな青春時代を送らせたい”

「高校に入学すると同時に、３年後の社会生活のことが課題となる。生活をよりよくこなす力、働く姿勢づくりが中心テーマとなる。従って、様々な経験を通して、生徒の持っている個性や創造力に深く働きかけるには時間が足りない。一人一人の個性(その人なりの生き方)がかたちづくられ、持っている創造力や表現力が豊かに発揮されるような青春時代を送らせたいと思う。様々な経験を何回も重ねていくうちに、自分という輪郭がはっきりとしていき、力が付いてくるのだと思う。それには、３年では短い。専攻科２年の必要性を模索していきたい。」

「一年を振り返って(校長所感)」、本庄義雄校長　1992年３月

専攻科開設準備のスタートとなった宣言です。今から32年も前に、当時の本庄校長が綴ったこの所感は5年間の青年期教育の意義を的確に指し示しているように思います。

本校の専攻科はこのような願いからスタートしました。

○専攻科棟建築の様子（1995年10月）

○専攻科第一期生　入学式（1996年4月）

◆専攻科の立ち上げ

学校教育は、子供たち一人ひとりが人格的存在としての『自分』を発見し、育て、確立していく場であると考えます。卒業生の姿から学びつつ、三愛学舎養護学校の教育内容を再構築しなければなりません。

……人間関係や文化的な活動など多くの経験を通して生活を豊かにしていく手立て、そして働くことの意欲と体力を身につけ、スムースな社会生活への移行を図るために、1996年度より従来の教育課程３年(本科)に加えて、新たに２年間の『専攻科』を設けます。　(1996年「専攻科のしおり」)

# ～専攻科 28 年の軌跡～

# これから新専攻科棟で生活するあなたへ

2025 年 3 月、いよいよ新専攻科棟が完成します。4 月からは待ちに待った新しい校舎での生活が始まりますね。

新専攻科棟を建てると決めてから、先生たちはどんな建物がいいのか、そこでどういう生活を生徒と一緒に創っていきたいのか、何度も何度も夢や希望を語り合ってきました。先生たちのその夢や願いが形となったのが新専攻科棟です。今から、先生たちの新専攻科棟に込めた願いをお話しします。

今度の建物は、「大きなひとつの空間」というの一番大きな特徴です。教室が壁で仕切られていません。きっとビックリすると思います。本科のときは学年ごとに教室が分かれ、さらにその教室の中もいくつかの部屋に分かれていました。心が落ち着かない、そんなときはクラスの仲間から離れて和室で少し休むこともあったかもしれません。けれどもあなたも数年後には三愛学舎を卒業して社会に出ます。社会に出ると自分が落ち着くことができる場所は、だれかが用意してくれるわけではありません。新専攻科棟は壁で仕切られた部屋がないので、お気に入りの場所・落ち着く場所を自分で見つけられる、あるいは作れるようになってください。

（新専攻科棟 内観 完成予想図 ）

新専攻科棟はもちろん専攻科生のホームですが、専攻科生だけでなく本科の生徒も自由に出入りして、休み時間はもちろん授業でも使ってほしいと願っています。休み時間に本科の後輩たちとボードゲームするなんてこともあるかもしれませんし、専攻科でやっている対話の授業なども本科の生徒といっしょにやるということがあると思います。もしかしたら保護者や地域の方も、あなたといっしょに学ぶということもあるかもしれません。できるだけたくさんの人と出会ってほしいと願っています。人生を楽しくするコツを一つあげるとすると、「たくさんの人と出会うこと」です。この大きな空間の新専攻科棟でたくさんの人たちと出会って、人生を豊かに楽しくしていってください。

ひとつだけお願いがあります。あなたがこれから生活することになる新専攻科棟は、あなたの生活する場所であると同時に、仲間の生活する場所でもあり、さらにはこれから新専攻科棟で学ぶことになる未来の三愛学舎の生徒が生活する場所でもあります。仲間や後輩たちのためにも、自分が生活する場所を「より良くする」ことを心がけてください。そのことはあなたが社会に出てからもとても大切なことです。そしてあなたのその心がけがこれからの三愛学舎のよい文化となり、後に続く後輩たちもあなたに感謝するでしょう。

さて、今の専攻科２年生のみなさん、卒業生のみなさん、新しい専攻科棟ができたら、いい時期にみなさんをご招待してイベントをやりますので、お楽しみに。そのときはぜひ三愛学舎に戻ってきてください。

最後に、新専攻科棟の建築は、設計の中居都市建築設計様、建築作業をスケジュール通り安全に進めてくれた丹野組様を始め、たくさんの方々のご協力をいただきました。特にも公益財団法人 JKA 様からの大きなご支援があって実現することができました。ぜひ、このことを心にとめてもらえたらうれしいです。

（ 事務長　箱﨑浩二 ）

（新専攻科棟 外観　完成予想図）

（起工式）

（基礎工事）

（屋根、外壁貼）

# 今年度の専攻科の取り組み

今年度の専攻科は、「同年代の学生との交流」、「専門的な知識をもった方からの学び」を目的に外部講師を招いた学習を行いました。他者との交流を通して良い刺激になりました。

ネイル・ハンドマッサージ体験

１つ目は「ネイル・ハンドマッサージの交流」を行いました。岩手県立大学の学生を招き、同年代の学生と交流することができました。生徒たちは緊張した様子も見られましたが、徐々に表情も柔らかくなり、「初めてネイルをやって良い気分になった」、「普段やらないことをやって視野が広がった」、「ハンドマッサージで手を触られて恥ずかしかった」などの感想が聞かれ、良い交流となりました。参加した大学生からは、「共通の趣味の話しで盛り上がることができた」など、お互いにとって充実した時間となりました。

音楽とのふれあい交流

２つ目は、「音楽とのふれあい交流」を行いました。普段、見慣れない楽器などを使用して、講師の方のリズムに合わせて自由に楽器を鳴らし、会場が盛り上がってくると、徐々に講師の先生から生徒たちがリズムの中心となり、楽器を通して一体感を感じることができた交流となりました。生徒からは、「聴くだけでなく、体験しながらリズムに合わせたことで、楽器の楽しさを知ることができた」、「普段使うことがない楽器を使って楽しかった」、「人前に出るのが恥ずかしかった」、「もっと長い時間やりたかった」、「色々な曲で楽器を鳴らしてみたい」などの感想が聞かれました。

新専攻科棟の完成が間近となっています。専攻科の授業は、２学年合同で行うものが多くあります。現在は、学年ごとに教室が分かれていますが、新専攻科棟では、授業だけでなく、２学年一緒に学校生活を送り、生徒同士の交流の機会が今以上に多くなることを願っています。生徒からは、「スポーツやダンスを通した交流をやりたい」という声があがっています。生徒同士の交流がさらに地域との交流や学習と発展していくことを期待したいです。

（ 専攻科部長　上路智大 ）

# これからのこと

**『こころにまき続ける、“希望の種”を』**

**・私たち三愛学舎は、恵まれた自然・環境、ゆったりとした時間のなかで、食・表現・対話を大切にし、喜びをわかち合い、希望をもって生きる人を育てます。**

**・共に支え合いながら学び、人のこころに種をまき、人のこころをつなぎ、人のこころを動かし、互いが賜物と認め活かしあうことで、未来の可能性を広げます。**

昨年度、三愛学舎コンセプトを教職員みんなで話し合い完成しました。コロナ禍の影響もあり、交わりが減っていた地域との関わりも少しずつ行うことができています。今年度行った地域のみなさんと専攻科園芸科とのプロジェクトを紹介します。

三愛学舎近くには国道４号線があります。地域の方々が国道沿いの花壇を明るく彩ってくれていました。しかし、近年、植える方の年齢が上がり、時間がかかることや、花壇の数が多くて大変という声が上がっていました。これまで園芸科が育てた花の販売までは行っていましたが、今回一緒に協力して花壇に花を植えることになりました。ただ花を植えるだけでなく、花壇の石拾いから始まり、マルチシート張り、花植え、看板作り、草取り、秋には片付けも行いました。地域の匠から教えてもらうことで、立派で色鮮やかな花が咲きました。

地域の方々からは、「三愛の生徒の皆さんからいっぱいパワーをもらいました。」「一緒に植えることができてよかったです。来年も一緒にできたらいいですね。」「花の量が多く根っこも大きいので大変。やっていただけると助かります。」と声をかけてもらいました。片付けをしている際、道行く人から「盛岡から通る時にいつも見ていました。とってもきれいな花壇でした。」とも声をかけてもらいました。

今回のプロジェクトをとおして、お互いに支え合いながら一緒に地域づくりができたのではないかと思います。昨年度、教職員がコンセプトを作成した際、この恵まれた自然・環境のもと、どんなことをやりたいか出し合いました。まだやりたいと思ったことの１割程度しかできていません。これからも地域の方々の協力のもと、一緒に希望の種をまき、時には新専攻科棟も拠点としながら生徒のみなさんの活躍や成長を見守っていきたいと思います。

（ 副校長　岩崎崇 ）

植えた直後の花壇の前で

色鮮やかな花壇

草取りもしました

## 2022 年度、2023 年度卒業生　合同同窓会　開催！

８月３日(土)に、毎年恒例の合同同窓会が本校を会場に開催されました。
同窓会当日は、共に学んだ仲間や教職員との久しぶりの再会に、学生時代の思い出話に花が咲き、互いの近況を報告しあうなど大いに盛り上がりました。
仕事の都合で参加できなかった卒業生もいましたが、それでもこの日のために予定を調整して参加してくれた卒業生も多く感謝です。皆さんの笑顔に元気をもらった１日となりました。
またの再会を楽しみにしています。

## みずほ教育福祉財団贈呈式

９月 24 日（火）、「みずほ教育福祉財団」様より助成金の贈呈式が本校で行われました。
同財団の教育事業部長 新井 豊 様が来校され、本科３年生の山本佳葵さんが代表として目録をいただきました。今年度の助成金では、生徒の活動を記録する一眼レフカメラや調理器具の滅菌機等を購入させていただきました。これまでもピアノ、ハンドベルなどの楽器やピザ窯、作業用ミキサーなど教育活動を充実させるための機器備品等を贈呈いただいております。
長年にわたり、あたたかいご支援をいただきまして、心より感謝申し上げます。

## デジタル表現活動の取り組み

今年度、外部講師を招いてデジタル表現活動に関する学びを進めています。その一環として、今年度は試行的に学校祭パンフのイラストをアプリを使ったデジタル表現で募集してみました。
テーマは「三愛学舎のお気に入り」。個々の感性が光った個性的なアングルの作品が多数応募されました。

**編集後記**

今年度の広報誌は『新専攻科棟へつなぐ思い』をテーマに作成しました。専攻科開設に動き出した 32 年前、当時の教職員は「卒業生の姿から学びつつ、教育内容を再構築しなければならない」と高らかに宣言しました。これまでの学びを支えてきた校舎が新しくなる今、改めて学校コンセプトを中心としながら「生徒の姿から学びつつ、生徒と共に教育内容をより深化、発展させていく」ことを目指していきたいと思います。　（花下浩）